2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価　Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 なし
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート Ⅳ次年度への課題 より転記） 2019 年度カリキュラム改訂に向けた準備作業と並行して、3 つのポリシーの見直しを進める。

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	国際関係学部、現代アジア研究所
評価基準 1	理念・目的　【自己評定　B　】
点検・評価項目(1)	1-1　大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
評価の視点	理念・目的の明確化
	設置の主旨や歴史からみた理念・目的の適切性
	個性化・独自性、国際化への対応
点検・評価項目(2)	1-2　大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(3)	1-3　大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ　点検・評価　対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

1-1	**＜国際関係学部＞** 国際関係学科と国際文化学科の 2 学科からなる本学部は、1986（昭和 61）年、「わが国の国際化に対する社会的要請に応えるべく、総合的な知識と視野を持ち、かつ国際的感覚と語学力を兼ね備え、自ら考え、判断し、行動することのできる実践的人材を養成する」ことを理念として創設された。 2006 年には、20 年の実績をもつ国際関係学部の教育『アジア理解教育の総合的取組』が、文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」（特色ＧＰ）に選定された。「アジア言語教育」「地域研究カリキュラム」「現地体験型学習」「学生による企画・参加・実行型の活動」の 4 つの活動を有機的に結合させたアジア重視プログラムであり、学部の理念と教育目標を定式化したものである。 このような理念に基づいて、学部および学科の教育研究上の目的は、次のように学則に定められている(A1-1 第 2 条の 2 第 5 号)。 **国際関係学部**はアジア諸地域を中心に、国際政治・経済・社会の課題を考え、また豊かな伝統と多様性に富むアジア諸地域の歴史・芸術・文化を学ぶことを通して、異文化を理解する心を育てるとともに、アジアの地域言語および英語の運用能力を身につけ、グローバル社会の一員として国際協力や国際交流に貢献できる人材の育成を目的とする。 **国際関係学部国際関係学科**は、アジアを中心とした国際関係学に関する学識を修め、広い視野に立脚した国際感覚と言語能力を有する人材の養成を目的とする。 **国際関係学部国際文化学科**は、アジアを中心とした国際文化学に関する学識を修め、広い視野に立脚した国際感覚と言語能力を有する人材の養成を目的とする。 **＜現代アジア研究所＞** 現代アジア研究所は、現代アジアに関する学術研究およびこれに関する諸事業を行い、研究成果を社会へ還元することを目的として設置・運営されている。　附置研究所のあり方について、全学の方針決定を待っている状態である。研究所の要となる事業のための予算措置は 2015 年度よりなし。
1-1	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** **＜国際関係学部＞** 理念・目的の設定について。**【×】** 具体的事例：

	＜現代アジア研究所＞ 理念・目的の設定について。【×】 具体的事例：
1-2	＜国際関係学部＞ 国際関係学部の教育研究上の目的は、学部ホームページ、履修の手引き『国際関係学部ガイドブック』に掲載して周知を図っている(A1-12 p.2、B1-6、B1-22 d2-表 1)。 近隣の小学校に学生を派遣して行う「小中学生のためのアジア理解講座」などが、地域社会に向けて学部の理念・目的を発信する有益な機会となっている（追加資料 1)。 ＜現代アジア研究所＞ 現代アジア研究所ホームページを通じて、教職員、在学生はもとより地域社会にこれまでの活動を発信している。
1-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 ＜国際関係学部＞ （1）構成員（教職員、学生）に対する周知方法と、その有効性について【○】 具体的事例：初年次生には 6 月に行う「国際関係学部の学びと就職」という講演を利用して、教育上の理念や目的を周知している。 （2）社会への公表方法について【○】 具体的事例：「小中学生のためのアジア理解講座」は、東松山市や比企郡町村の教育委員会の協力を得て、より広範囲で実施する体制が整いつつある。 ＜現代アジア研究所＞ （1）構成員（教職員、学生）に対する周知方法と、その有効性について【×】 具体的事例： （2）社会への公表方法について【×】 具体的事例：
1-3	＜国際関係学部＞ 2006 年度の特色ＧＰに選定された『アジア理解教育の総合的取組』は、学部創設以来 20 年間の教育実践を総括し、学部の理念・目的について学部全体で総点検・検証した成果である。また、4 年ごとに行うカリキュラムの見直しや、自己点検・評価活動における定期的な検証が、有益な検証の機会となっている(B1-16)。検証の主体となるのは、学部改組検討委員会及び教務委員会であり、結果はすべて教授会に報告される。 ＜現代アジア研究所＞ 全学的な学部附置研究所の見直し（統廃合を含む）や「学部再編」の動向の中で、附置研究所の将来像はきわめて流動的である。こうした過渡的態勢にあるため、定期的検証は行っていない。
1-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 ＜国際関係学部＞ 理念・目的の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【○】 具体的事例：2019 年度カリキュラム改訂に向けた準備作業と並行して検証を継続的に行っている。 ＜現代アジア研究所＞ 理念・目的の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

1-1	
1-2	
1-3	

【改善すべき事項】

1-1	≪現代アジア研究所≫ 全学的な方針が定まった後には、附置研究所の存続の可否、理念と目的について再検討する必要がある。
1-2	＜国際関係学部＞ 学部の理念・教育目標を、学生が的確に認識しているかどうかを検証する必要がある。 学部の理念や教育目標が地域社会にも理解されてはきているものの、まだ十分とはいえない。
1-3	

Ⅲ　【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価 2014	2015	2016	2017	2018
中期目標（2014～2018）	＜国際関係学部＞ 1-2　教職員及び在学生が学部に固有の理念・目的を的確に理解し、それを学部外に説明することができる。	常設の学部内委員会（当面は「学部再編検討委員会」）において、学部の理念・目的（CP や DP も含める）の独自性や社会的な有意義性について検証し、議論の経過を、定期的に教授会に報告、教職員からの意見聴取を行なう。	→ → →			C	B	
	＜現代アジア研究所＞ 附置研究所の将来像の確定	学部としての方針を決定する。				C	C	
16 年度目標	＜国際関係学部＞ 1-2　教職員及び在学生が学部に固有の理念・目的を的確に理解できるよう周知を徹底する。	チュートリアルにおいて、『学部の学びと社会の関係』を喚起するための授業や講演を 2 回以上実施する。				A		
		常設の学部内委員会（当面は「学部再編検討委員会」）において、学部の理念・目的（CP や DP も含める）の独自性や社会的な有意義性について検証し、議論の経過を、定期的に教授会に報告、教職員からの意見聴取を行なう。				B		
	＜現代アジア研究所＞ 附置研究所の理念と目的の再検討	運営委員会が附置研究所の理念と目的の再検討結果を、教授会に提案する。				C		
17 年度目標	＜国際関係学部＞ 1-2　教職員及び在学生が学部に固有の理念・目的を的確に理解できるよう周知を徹底する。	チュートリアルにおいて、『学部の学びと社会の関係』を喚起するための授業や講演を 2 回以上実施されている。					S	
		「学部再編検討委員会」において、学部の理念・目的（CP や DP も含める）の独自性や社会的な有意義性について検証が行われ、改訂案が教授会に提案されている。					A	
	＜現代アジア研究所＞ 1-1 附置研究所の将来像の確定	附置研究所改革に関する全学的な方針が定まった場合、運営委員会において研究所の存続について再検討し、理念目的についても再検討する。					C	

Ⅳ　評価専門委員会所見

＜国際関係学部＞

1-1,1-2,1-3【現状】「アジア理解教育の総合的取組」、近隣の小学校に学生を派遣して行う「小中学生のためのアジア理解講座」、東松山市や比企軍町村の教育委員会の協力を得て実施していること等々、学部の理念・目的を活かした地域社会への貢献は高く評価できます。他の学部・研究科の参考になるものです。

1-2【目標】においても、具体的方策や指標が設定されていて、評価できます。

1-2【改善】【目標】改善すべき事項に、学部の理念や教育目標が地域社会にも理解されてはきているものの、まだ十分とはいえないとありますが、これに対応した目標や達成指標が設定されていれば、なおよいと思われます。

＜現代アジア研究所＞

1-1,1-2【現状】記述が少なく、これでは第三者に明確にわかりませんが、学部附置研究所自体が過渡期的体制にあり、現代アジア研究所も事実上休止状態にあるため、記述が少なくとも仕方がないことなのでしょうか。

1-1【目標】研究所の将来像の確定と、指標として、運営委員会の具体的な検討内容が挙げられたことは、評価できます。

Ⅴ　所見への対応

1-2【改善】【目標】の「学部の理念や教育目標が地域社会にも理解されてはきているものの、まだ十分とはいえないとありますが、これに対応した目標や達成指標が設定されていれば、なおよいと思われます」との指摘について、目標達成を測る効果的な指標を設定することが困難であることと、現状でも学生の活動等により一定の理解が得られているということを考慮し、「学生や教員による活動報

告は、随時、学部ＨＰに掲載されているもの、十分とはいえない」という一文を削除することにする。

Ⅵ　次年度への課題

学部内に内部質保証委員会を設置し、2017 年度に改訂した三つのポリシーに対応した「カリキュラムアセスメントポリシー」を策定する。現代アジア研究所の将来構想について、2018 年度前期中に結論を出す。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A1-1　　大東文化大学学則
A1-6　　大学案内「CROSSING2017」
A1-12　　国際関係学部　ガイドブック 平成 29（2017）年度入学生用
B1-1　　大東文化大学将来基本計画 DAITO VISON 2023
B1-4　　『大東文化大学 将来ヴィジョンと基本方針』（2016 年 2 月総合企画室発行）
B1-5　　大学ホームページ（建学の精神・教育の理念）http://www.daito.ac.jp/information/about/idea.html
大東文化大学の基準別基本方針 http://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy.html
B1-6　　大学ホームページ（情報公開）http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html
B1-16　　大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動）
http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html
B1-18　　大東文化大学基準別基本方針
B1-22 大学データ集
＜大学基礎データ＞
d 1-表 1　全学の設置学部・学科・大学院研究科等（2016 年 4 月 1 日現在）

〔追加資料〕
1　国際関係学部ホームページ　http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/asia/gp/high_school/details_11642.html
2　国際関係学部ホームページ　http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/asia/gp/high_school/details_21597.html
3　国際関係学部ホームページ　http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/asia/gp/high_school/details_22136.html